

## 様式第五十の二（第48条第6項関係）

### 認定事業適応計画の実施状況の概要の公表

#### 1. 認定の日付

2023年12月11日

#### 2. 認定事業適応事業者の名称

大倉工業株式会社

#### 3. 認定事業適応計画の実施期間

2023年12月～2024年12月

#### 4. 認定事業適応計画の実施状況

##### （1）事業適応計画に係る事業の目標の達成状況

当社グループは2019年に、10年後のありたい姿として「要素技術を通じて、新たな価値を創造し、お客様から選ばれるソリューションパートナー」を目指して、経営ビジョン「Next 10」を定め、長期的な企業価値向上に向けて経営しています。その中で、新型コロナウイルス感染症の影響、世界的な脱炭素社会への加速などによる外部環境の激変への対応に対し、環境・エネルギー負荷を軽減する事業を注力領域とした「サステナブル材料、減量化、リサイクル、省エネの取組」を実践し、脱炭素社会・環境価値の創出に貢献していきます。

環境貢献製品を「カエルラ」として、生活サポート群におけるカエルラ認定製品の売上比率を2024年に50%以上にする目標で進めておりました。実績は55%となり目標を達成いたしました。2024年は環境貢献製品の売上が約338億円で、2023年比で約49億円増加しました。

##### （2）生産性を相当程度向上させること又はその生産し、若しくは販売する商品若しくは提供する役務に係る新たな需要を相当程度開拓することを示す目標の達成状況

2023年度より事業適応を開始し、2024年度(目標年度)までに仲南工場の炭素生産性を10.63%向上させること、丸亀第五工場の炭素生産性を10.98%向上させることを目標としております。

しかしながら、仲南工場にて2023年12月にG棟南側に新工場を新設し、稼働を開始する予定であった偏光板保護用アクリルフィルム製造設備について、導入設備に一部、不具合が発生したこと等から稼働開始が2024年2月に遅れたうえ、品質に課題があったため稼働はしたものの当初計画通りの生産は行えませんでした。そのことにより2024年度の仲南工場の炭素生産性向上は5.63%となりましたが、2025年1月より本格生産体制にめどが立

ったことにより今後、向上に向け取り組んで参ります。

また、丸亀第五工場においては、2024年1月に重油焚蒸気ボイラーを熱回収ヒートポンプとガス焚蒸気ボイラーに更新し燃料転換を図ることにより、炭素生産性を75.08%向上させました。

(3) 財務内容の健全性の向上を示す目標の達成状況

2024年度(計画終了年度)に、経常利益を計上することを目標としており、仲南工場の偏光板保護用アクリルフィルム製造設備の稼働開始が予定より遅れましたが、目標の達成に向けて取り組んで参ります。